

群馬県がん患者団体連絡協議会

ニュースレター♪

2010年2月1日 第18号



～主な記事～

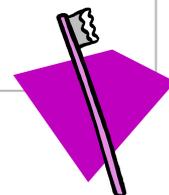
- ◇ 県歯科医師会発刊「患者さんのための医療連携協力歯科医師マップ」に本田会長が寄稿しました
- ◇ 映画上映会 会場で乳がん検診啓発を実施しました
- ◇ 群馬県立がんセンターにて懇談会が開催されました
- ◇ 掲示板（本の紹介・健康づくり財団イベントのお知らせ）

☆県歯科医師会発刊☆

「患者さんのための医療連携協力歯科医師マップ」に 本田会長が寄稿しました

群馬県がん対策推進協議会の委員就任をきっかけに、これから群馬県歯科医師会が発刊する『がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病 患者さんのための医療連携協力歯科医師マップ』に当協議会 本田会長が発刊にあたってという原稿を寄稿しました。

治療中の口腔内のトラブルに悩む患者に対して、今後、専門の歯科医師や歯科衛生士にケアを受けられることは患者にとって心強いことであり、医療関係者とのネットワークがますます広がることを願います。





映画上映会



会場で乳がん検診啓発を実施

群馬県と上毛新聞社主催の映画上映会が、去る平成22年2月7日(日)、前橋テルサホールにて開催されました。

「Mayu ーココロの星」...21歳で乳がんになった大原まゆさんの原作をもとに病氣と前向きに向き合った姿が描かれている映画でした。

この映画上映会の趣旨は若い女性から中高年の女性を対象に女性特有のがん予防を中心とした普及啓発を行い、生涯にわたる女性の健康づくりを支援するものです。

上映会の前には健康づくり財団、大屋保健師が「乳がんの自己検診ミニ講座」を行い、会場の外では乳がん検診をすすめるDVDを放映したり、乳がん触診モデルを展示しました。この日は「ポピーの会」の皆さんがお手伝いして下さい、来場者に自己検診をPRしました。

映画が終了してから、たくさんの方達が触診モデルのところに集まり、それぞれに自己検診の方法を試していました。

若い女性、親子、家族、男性も多く参加されていたこの映画上映会はこれまでがん連協が呼びかけてきたがん検診の重要性や、がんになった時、人との結びつき大切さをさらに幅広い年齢層に訴えることができたのではないのでしょうか。

同時に、上毛新聞で特集された1月31日付の乳がんや子宮がんの記事に生菜の会 代表 岡庭和子さんが体験談を寄せて下さいました。



群馬県主催

「納得の医療、信頼の医療のための懇談会」 開催されました



…当日参加されました、患者会「ひまわりの会」の根岸利光さんにお
願い、懇談会の様子を寄稿していただきました。
根岸さん、参加していただいたみなさん、ありがとうございました…

「納得の医療、信頼の医療のための懇談会」が平成22年1月30日(土)、新装になった太田市の県立がんセンターで開催されました。日光方面の山並みが綺麗でした。

講師陣は県立がんセンターの、猿木信裕副院長、鹿沼達哉副院長、湊 浩一医療局長、玉木義雄放射線治療部長、桜井通患病棟看護師、小池由美医療ソーシャルワーカーと、「信頼の医療」の実現にかける主催者側の心意気が伝わってきました。患者・家族側も力が入り、早々に50名の定員を突破。1/3程はがん連協からの参加者でした。

講演の第一部では、がん医療全般と外科・内科・化学療法・放射線療法の各分野ごとに、患者・家族が「納得の医療」を選択するためのポイントが語られ、第二部では豊富な経験に裏打ちされた「相談や質問」のコツを勉強しました。

質問時間はわずかでしたが、「診断から手術まで3ヶ月も待たされそう。がんは大丈夫なのか」「婦人科に入院中、胸のしこりに気づいて何回か看護師さんにいったが、大丈夫と言われ、そのままにしていたら乳がんだった。婦人科と乳腺外科との連携は病院内であるのか」「肺がんが再発して抗がん剤治療を始めたが、薬が追加されたり、変わったりした。主治医は初発の時に手術をした外科医。抗がん剤治療になったら腫瘍内科で見て欲しい」など、どれも切実な問題でした。

こうした質問に、「待てないようなら、他の病院を紹介してもらおう方法もある」「婦人科に入院していても、検査をすることはできるので、医師にはっきり異常を伝えることが大切」「腫瘍内科医は日本にとても少ないが、各病院ともチーム医療で対応している」との回答がありました。

心強く感じた言葉がいくつもありました。「選択したことは後悔しない」「死ぬことよりも残りの人生をどう生きるかを考える」「コミュニケーションの大切さ」「自分の意見を持つこと」などでした。私もその通りだと思いました。また、患者が困ったり悩んだりしたとき相談支援センターを利用することも一つの助けになることを知りました。などの感想から主催者側の意図の浸透ぶりを垣間見ました。

「納得の医療、信頼の医療」は医療者と患者・家族の相互理解なしには適わない大きな目標のように思います。懇談形式のこうした企画が沢山の地域で生まれれば目的に近付けそうな気がしてきました。せっかくの貴重な講演でしたから、スライドの印刷物などがあればよかったですと思いました。

掲示板



いろいろな紹介です。
みなさんもお知らせを
寄せて下さい。

☆本の紹介☆

ひまわりの会会員 篠原敦子さんが本を出版されました。

「その夏、乳房を切る」 めぐり逢った死生観

創栄出版(株) 価格1,300円

集英社・第6回開高健ノンフィクション賞 最終候補作品
平成21年度群馬県文学賞(随筆部門)受賞
第12回 自費出版文化賞 受賞



※売り上げの一部は乳がん撲滅のための活動に寄付されます。
お近くの書店で購入できます。ぜひご覧になって下さい。

☆健康づくり財団 ヘルスアップフェアを開催します☆

例年開催している施設開放型のイベントを今年も行います。子どもから大人まで楽しめるようなメニューを用意しています。テーマは「めざそう健康 ふやそう笑顔」です。運動教室や健康チェック、科学教室などが行われます。お誘い合わせのうえ、お出かけ下さい。

日時:平成22年3月7日(日) 午前10時~午後3時
場所:群馬県健康づくり財団 建物内 (前橋市堀之下町16-1)



【群馬県がん患者団体連絡協議会 事務局】

〒371-0005 前橋市堀之下町16-1
(財)群馬県健康づくり財団 総務部 総務課

電話027-269-7811・FAX027-269-8928
E-mail soumu3@gunma-hf.jp

編集後記

最近、サザエさんのようにそそっかしい行動が多くなりました。財布を忘れて買い物に行きそうになったり、突っ張り棒の幅の目測を誤り幅が足りない物を買ったり、ガスレンジを都市ガス用とプロパン用の物を逆に買ったり…「落ち着きゃ一人前だ。」という落語のフレーズをしみじみとかみしめています。

編集担当 荒木美保